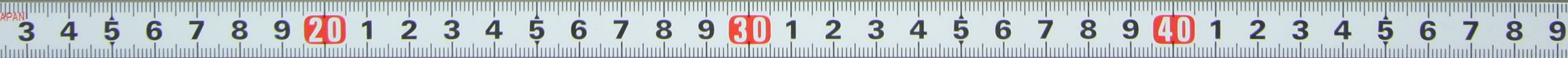




辨階時下秋冷日に増し申候に
市曾体仰別條に無く具
仰百操卷之仰清榮大慶
之至之奉好矣、陰市ヤ多ク我
不和斐強健 去月三十日の迄流
軍在以此區耳塞出在 翌十
日ノ里昂著仰紹介状
を以て山田鎮事より稱好
情を奉之し同他、美新報
織物場在り一覽地等、會々大
坂ノ位友友北新門外政分漫



遊ありの歸途同起に立寄水た
 水如様と 深金と様其の是物に
 矣、此の可也一事の近來殊々
 戦勝後同起の人は此理を
 辨鶴侯と申すものや曰は
 合の對して略々攘夷之義を
 持し仲々実易之工場をどの
 是物と申すものや殊々攘夷
 論を考へ候其の是物と申すは
 一切拒絶するもの針の程に

農商階級の、実業傳習生と
 京都鐵道會社、林所某氏の

如きは領事を此の如く願ふ事
 甚し之漸く一軒、工場、之等
 是令練習致す事、之水、之
 之日本固有の模範の如き意
 願の如き成る事、盡力して模
 倣し、是令、之は立派なる日本
 是日地、之出来、片申す、次回
 の博覧會の節、如きは
 我ら、実業、此成、大、之、後、来
 一、之、實、状、を、視、察、す、事、の、以、要
 大、之、好、し、事、業、と、是、等、事、業、
 也、是、以、之、水、栗、所、公、任、を、好、め、

公使館員法急より好情を奉
 う新卒同好生らうとせしむるに
 之に別着新卒故ニ三月十日迄
 言語之を此と通す極
 其水牛之と余の稿之に漢文
 二泊稿一本月六日迄
 当地に到着時今在記の如
 二寄寓宛在年

H. Fuchsger,
 17 Rue Marie Thérèse
 Bruxelles,
 Belgique.

即ち臨之松子正位とて
 地之留學也一際幸り萬也し

家孫ニ師死す

何事も只今も元々も元故不
 通也此水也思ふ様々年々尤
 多故の重人ほ大室院の昔
 書記之より他之は中葉以上
 の紳士之正故有る伊波を
 語り申故故今月云於フラニ
 之は人之執を勉励致良有
 何様一事一物も同下りの伊
 波之語り此水意味通也其
 事故進歩頗る早人朝古
 一晩直家孫と共に語り

6
其の命一其の敬歩一務有問
不知く進歩し三月間之徒
遠去本在佛成、新軍位上
強女之七ヶ月に及過す本五
少大業の務義位に聞ける
概に相成候豊候了希新在
臨あり安今の問題は申先迄、
葉の例の霞佛同盟に表
の事之佛国に及共、
ロレレを細後去の概来水
りとあり狂喜致居矣概
乙^水妻あり安な舞り、惚る狼

独逸党稱子 其國内也

沈着を其衣に居申安、其

角多かりの變調子事

実と否安

白華義國の公使館

而設置の趣実と必要を

多帯好と存申安、其

少國^一之申立者も其

政治の時事問題と直接の

關係無し他の大國と

揣摩し其^手成りたる事

此の地を其が研究せり

婿に板之息者此年珠
 身地ハ仕務次在ハ如左願
 親御有ハ人仰之ハ日本
 好意を有シ何事ハ醇之
 従明教年板ノ御此年母志
 此ノに公使館と珠遣致
 会母志ハ此ノ為女ハ在御等
 二指登ハ事有ハト息者

此年

先者刻者ノ御致也

十の十

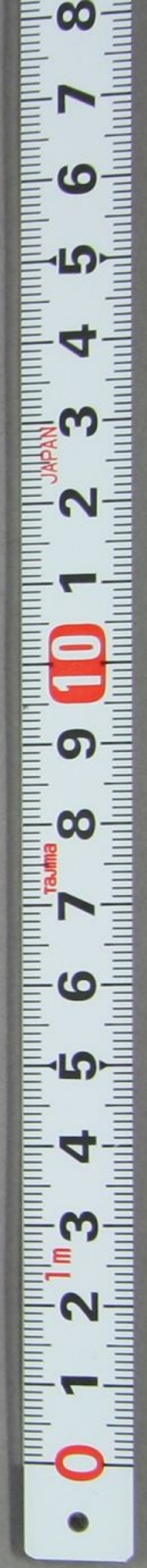
早之板之

古谷久岡

大隈伯海園

王板之

(via Vancouver)
 大日本東京外務大臣宛印
 大隈伯爵閣下
 牛込早稲田自由印
 此郵便物の
 左の場所へ轉居に付持戻候也
 東京郵便電信局
 集配人
 集五號
 へ掛
 東京
 五月
 二日
 便



東京
明治
三月
廿
九
日
午後
七
時
分
鐘
開
封
大
隈
伯
爵
閣
下

(a Vancouver)

Son excellence
Monsieur le
Comte Okuma,
Ministre des affaires
étrangères,
Tokio,
Japon.

大日本東京外務大臣官邸
大隈伯爵閣下

